

【新顔作物の振興について】村田光成 R4.12.2(一般質問)

(2) 新顔作物の振興について

次に、新顔作物の振興について伺います。

本道農業は、我が国最大の食料供給地域として、米や小麦、馬鈴しょなどを基幹作物に、安全・安心で高品質な農産物を安定的に生産・供給することで、国民の食を持続的に支える大きな役割を果たしており、引き続き、これら作物の生産振興や消費拡大の取組を進めて行くことが重要と考えます。一方、これまで、道内では生産しにくいとされてきた『ニンニク』や『サツマイモ』、『落花生』について、近年、若手農業者が中心となり、チャレンジ精神と創意工夫によって、新たに作付けを始める方が増えてきているとお聞きしています。

道では、このような動きも捉え、今年度、これらの3作物を本道の『新顔作物』として、生産の振興や需要の拡大に取り組んできたと承知していますが、これまで、道産農産物の新たな魅力としての、『新顔作物』の振興にどのように取り組んできたのか、また、今後どのように進めて行く考えなのか伺います。

(答弁：食の安全推進監 野崎直人)

・今年度、新顔作物に選定した『ニンニク』、『サツマイモ』、『落花生』は本道において、更なる生産の拡大が期待され、

戦略作物となる可能性を大いに秘めていると認識。

- ・道では、栽培マニュアルの作成や普及センターによる栽培指導、PR動画を作成し、各種メディアで配信。また、道内の飲食店や食品メーカーへの商品化の働きかけなどを行ってきたところ。
- ・民間の事業者（※苫小牧）がホクレンの協力を得て、新たに、道産さつまいもの集出荷施設を整備するなど、産地化を進めており、道としては、こうした動きをチャンスと捉え、先進的な取組の紹介、生産者と実需者のマッチング、どさんこプラザでのPRや販売など、生産と需要の拡大に積極的に取り組んでまいる。